

ハワイ航路

岡本 祥一
予科5-7
航空16-4
通信
(川口市)



まえがき

「あこがれのハワイ航路」、岡晴夫ヒット曲ではなかったか。大昔の話で。そのあこがれのハワイ、米寿に近今になってやっと4つの島を巡る7泊日の船旅に出かけることになった。

オアフ島のホノルル港からマウイ島、カウアイ島を観光し、最後ホノルルの名門と言われている「ハレラニ」ホテル宿泊のプランであった。



クルージングの航路

ハワイの自然、とりわけ有名なハワ島火山の溶岩流を期待したが、現在はられず、また天候悪化の影響もあってささか不満な印象しか得られなかったしかしハワイの海の色は、エーゲ海のメラルドと肩を並べる透明な、素晴らしいものであった。

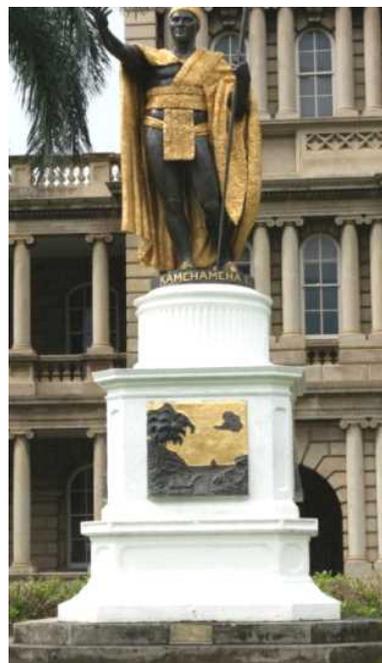
「あの木何の木？ 気になる木♪♪」

ホノルル到着後、乗船前に半日の観光先ず訪れたのはモアナアガーデン。ご存じ日立製作所のCMとして取り上げられた「気になる木」がここにあった広い芝生の中央に1本の大木が人目をめていた。アメリカネムの木、別称モキーポット。孤高を感じさせる印象的な景観であった。



気になる木♪♪

次に、ハワイ王国の古跡に向かう。ワイ諸島を始めて統一して1810年ハイ王国を建国、初代の国王となったカハメハ大王の像、そしてハワイ王国最の王、リリウオカラニ女王の像。



カメハメハ大王の像



リリウオカラニ女王の像

最後に、宇和島水産高校練習船「えめ丸」の惨事を偲んで慰霊碑に参拝。002年2月オアフ島沖で急浮上した米原子力潜水艦の操作ミスにより衝突さ沈没、要員35名中9名（高校生4名）犠牲になった。

食事

クルーズでの最大の楽しみは矢張り食である。しかし、アメリカの食事は概し大味である。

どのクルーズでもほぼ同じであるが、事は Buffetスタイルと食堂でのDinner タイプがある。どちらを選んでも良い。のほかに有料の食堂もある。食堂では 類は専門のソムリエに依頼、その場で注文支払いをする。

Buffetは朝から夜遅くまで終日開いてる。見ていると、アメリカ人は良く食る。そして良く太っている。サンデッではトドの大群の日光浴と見まがう状に圧倒される。人ごとながらコレステールの値を気にせざるをえない。

今回のアメリカ系客船はカジュアルベルで、正式な晩さんは無く、Dinnerでもネクタイ不要であった。

一つ気がついたことがある。リンゴイチゴ、キャンテロープ等の果物が美しくない。オレンジだけはさすがではあったが。

現地の案内人から聞いた話である。5の子供に「ふじ」を一度食べさせた。それ以来その子は決してアメリカのリンを口にしなくなった。高価な「ふじ」か食べなくなり困っていると笑ってた。

また内地で食べる最近のイチゴは美味しい。しかし、船内で出されたイチゴは、大昔サンフランシスコで食べたイチゴの味と変わらなかった。

アメリカでは大量生産への品種改良盛んであるが、味の良い品種改良への力はあまりされていないのではないか。これら果物やお米に代表されるように、日本の農産物は品種改良が進み、本人独特の感性と努力により磨かれ、くの人に愛されるものになっている。その昔、ある会社の技術顧問であったことがある。その社長は、「どんなに術的に優れた製品でも売れなければ、た売らなければ会社はつぶれる。有能セールスエンジニアが必要である。」繰り返しておられた。

優れた農産物を国内だけで消費するはもったいない。もっと世界に売り込努力をすべきではないか。

海

ワイキキの浜は海水浴の人々で賑わっていた。打ち寄せる波はあくまで透明ある。気がついたことがある。ハワイの島巡って、海に注ぐ川が殆んど見当たらないこと、そして長い海岸線には漁港らしきものが見当たらないことである。日の海岸の風景とは対照的である。

海水が透明であることはプランクトンがないことに通ずる。そのため、魚が少ない。ハワイの沿岸漁業は昔から発しなかった。ものの本によれば、そのわり、ハワイ王朝時代から陸地での魚養殖が盛んであったそうである。

日本の沿岸漁業は、山の栄養分を川運び

込むため漁獲量が多いと聞いている。
ハワイの海と日本の海、それぞれの徴に強い興味を覚えた次第である。



透明な海

ダイヤモンドヘッド

オアフ島ホノルルのワイキキ海岸か東、連絡バスで40分程のところにあ小規模な休火山、その外輪山の最高峰ダイヤモンドヘッドである。海拔232m海岸近くに聳え見晴らしが良く、多く観光客が押し寄せている。1700年代後半、西欧の探検家たちが噴火口内の岩石にある方解石（無色透な炭酸カルシウム単結晶）をダイヤモンドと間違えたことからダイヤモンドヘッドと言われるようになったそうである。



ワイキキ海岸から望む

登山口にあるインフォメーションセンター

ーで登山料1ドルを払いクレー内の道を歩き始める。次第に道は険くなる。40分ほどで頂上へ。頂上にあるシェルターは満員。写真撮影でごっ返していた。透明なハワイの海、そしてワイキキ海岸が眼下に望まれる。見事眺めではある。



ダイヤモンドヘッドにて

その昔、国際会議出席と称して、欧からアメリカを経て帰国したことがある。その帰途、ハワイのホテルに1泊た。ワイキキの海岸を散歩しただけでた。1ドル360円の時代、貧乏書生は物見遊山の余裕はなかった。帰国後、友人にダイヤモンドヘッド行ったかと聞かれ、知らなかった、行なかったと答えた。その友人はとうの鬼籍に入ってしまった。あの世で会えら、今度は行ったよと報告するつもりある。

あとがき

聞いた話である。最近のハワイの観光客のトップは中国人、次は韓国人、日人は第3位に落ちてしまったそうで、本人ガイドは大いに嘆いていた。国のり様がこのような形で影を落としていたのであろうか。

ハワイと言え、真珠湾。しかし、いに真珠湾攻撃の戦績を見学できなかった。中心のアリゾナ記念館には入場券必要だそうで、数が限られているため朝にホテルを出なければならず、余裕なくあきらめざるを

得なった。

海外から帰国すると愛国心が強くなと言
う。書斎の椅子に座って「日本はい国だ、
素晴らしい国だ」とつくづくい返す。平和
であり、人心が穏やかで教育レベルも高く、
自由の気分が満ちいる。果物も美味しい。
食事もおいしい健康でさえあれば、豊かな
人生を全うすることができる。

平和な日本の一層の繁栄を強く期待て筆を
置く。